

(別紙1)

## 平成 23 年 4 月から平成 23 年 11 月までに入院され 「プラザキサカプセル」の投与を受けた患者さんへ

「急性期脳梗塞患者におけるダビガトランの使用状況調査研究」に関する  
データ使用のお願い

平成 23 年 11 月 24 日  
川崎医科大学附属病院  
脳卒中科 渡邊 雅男

平成 23 年 3 月より本邦においてダビガトラン（商品名：プラザキサカプセル）が承認され、当院では平成 23 年 4 月より使用を開始しました。この薬剤は従来の抗血栓薬であるワルファリン（商品名：ワーファリンなど）と比較して食事制限が無く、採血データで内服量を調整する必要がないという利点があり、さらに、ワルファリンより出血の副作用が少ない事が報告されております。

プラザキサカプセルの副作用については出血と消化不良などが報告されていますが、これらは海外でのデータであり、また、我が国における急性期の脳梗塞患者さんにおいてプラザキサカプセルをどのように使用すべきかという指針は定まっていないのが実情であります。そこで、急性期脳梗塞患者さんにおけるプラザキサカプセル使用の実態を調査し、今後の脳卒中治療の発展に役立ててゆくことになりました。

具体的には、平成 23 年 4 月から平成 23 年 11 月までに当院脳卒中科に入院した発症 7 日以内の脳梗塞患者さんの中で、プラザキサカプセルの投与を受けた患者さんです。今回、診療で得られたデータをまとめ、学会に報告する予定であります。つきましては、診療で得られたデータを研究に使用する事にご理解とご協力を賜りたく存じます。

この研究は、通常の日常診療の結果を集めて分析するだけです。患者さんに新たな負担が生じることはありません。また、患者さんの住所・氏名など個人が特定されるような情報が第三者に知られることはありません。なお、この研究は医師による自主研究で学内研究費のみを使用する研究のため、いかなる製薬会社、医療機器会社との間において利害関係は存在しません。

もし、この研究の内容に関する質問や研究の内容をもっと詳しく知りたい場合や、調査研究に同意いただけない場合は、担当医師もしくは、下記担当者までご連絡ください。

担当 渡邊 雅男（川崎医科大学 脳卒中医学 講師）  
電話番号 086-462-1111（代）  
FAX 086-462-1199